

陸前高田市議会会派

新星会

発行
陸前高田市議会会派「新星会」

発行日
平成17年6月1日

第2号

発行責任者
松野 榮雄



本格的な漁期が始まる定置漁場、浜の大漁が市内景気にも大きく影響します。祈大漁！

十七年度の始まり

に当たって

我々市議会議員の任期も折り返しを迎えました。

十七年度は、行財政改革プログラムの実施初年度であり、後期の市総合計画基本計画を策定する重要な年度となりました。

新年度予算等を審議する十七年三月定例会では、市長の市政方針演述があり、今年度の行政の進むべき方向性が示されたところです。

特にも、中里市長が選挙公約として進めてきた国保税の引き下げについて、医療制度改革や介護保険への繰出し金の増加などから一転して引き上げを行う条例案と予算案が出されました。我々会派は、国保制度の安定的運営と市内経済に与える影響等について、市当局と厳しい議論をしてきました。その結果、本年度に引き上げを行わなければ、来年度以降大幅な国保税の増額につながることから、市民生活への影響を最小限に止めるため、提出された案件について賛成の態度を取りました。

今後とも、市民生活の向上に向けた議論と提案をして行きたいと考えておりますので、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

新星会会長 松野 榮雄

先順位は何か

松野 今年度は、総合計画の後期計画を策定する年度となっております。この計画は今後五カ年間の陸前高田市の行政運営の指針となるものであり、大変重要な計画ですが、皆さんはこの計画の方向性をどのようなものにしたらとお考えでしょうか。特にも、地方自治体を取り巻く環境は、社会的にも経済的にも非常に厳しい時代を迎えているわけです。是非、「市民生活の安定と発展」を実現するために建設的な意見をお願いいたします。

佐藤 私は、かねてから話していますが、地場産業の振興なくして市の発展はないと思っております。特にも、一次産業の振興を具体的に進めることが急務だと考えております。皆さんとともに会派の研修として新築された学校給食センターを視察し、戸羽所長さんや栄養士さんたちと意見交換してきました。衛生面、安全性、環境への配慮等がなされており、施設は大変素晴らしいものとなりましたが、地産地消の面、市の産業を食を通して学ぶといった面が少し欠けているように感じてきました。地元食材の利用とその安定的

な供給のあり方を図ることは、大変重要であり、このことについては一般質問の中で、市の考え方を質しましたが、「十七年度においては市の産業振興部が中心となり庁内関係部署との連携を図りながら生産者・農林漁業関係団体・流通関係者等



意見交換の場を設け、地元食材の利用促進をする」との答弁を得ていますのでぜひ実施してほしいと願っています。

同時に交流都市をめざすとして、いる当市にとってグリーン・ブルーツーリズムの推進など多角的な

行政施策の推進が必要だと考えています。

松野 私も農業を営んでおる関係から、佐藤さんの考えに共感するところが多いですね。西條さんは、行財政改革プログラムの審議を通して、再三、減らすことだけを考えるのではなく、積極的に行う施策も必要との意見をおっしゃっておりますが、どのようにお考えでしょうか。

西條 限られた財源しかないわけですから、無駄な経費は抑えることは当然であり大切なことだと感じていますが、何を目的に行財政改革を行うのかが見えていません。私は、無駄な支出や、緊急性に欠けている事業などは見直したり廃止することは必要であると思っていますが、全てを削減・縮減ではないと思っています。投資をして見返りが大きいものであれば積極的に行うことが、市財政に対してプラスになると思うし、それが次の事業や市民生活の向上につながるかと考えております。一例をあげますと、利用度が高く施設の狭隘がいわれている黒崎温泉などは、もう少し積極的な事業展開を行うことでさらに多くの利用者が

見込まれ、市財政への貢献とともに様々な形で市の発展に寄与する施設だと考えております。

松野 そうですね、縮減だけでは市民の気持ちもしぼんでいくのではないかと思います。何か希望の光がみえるような施策の推進が必要ですね。福田さんはどのようにお考えですか。

福田 行政の役割は、今も大事ですが明日に続くことも大切ではと考えております。少子高齢化の急速な進展といわれており、本市でもそうなのですが、子供が少ないです。中里市政ではその対策として、乳幼児の医療費助成の拡大や第三子の保育料無料化などを進め、子育てしやすい環境を作るとして実施しているわけですが、今、本当に必要なのは働く場の確保、生活できる経済力の確保だと私は感じています。いくら、乳幼児にかかる経費を少なくしてあげても、ここで生活できる場所、いかにあれば生活費を獲得する場所が無くては若者は定着しませんし、将来に向かって子供を養育する費用を確保できる場所が無ければ解決にならないと思います。特に、このところの誘致企業の撤退



政策の優

新星会座談会

や廃業などが続き、市内で働く場所がどんどん少なくなっています。雇用の場の確保につながる施策の実行が急務だと考えています。

松野 働く場所がどんどん少なくなっている。本市のもう一つの産業である建設業も公共事業をはじめとして仕事が少ないっており、従業員の解雇も聞いております。ますます厳しくなっていると感じますね。三月議会では、企業誘致のための施策として「企業立地奨励条例」の改正案がだされ議決したわけで、固定資産投資額への助成額の引き上げなどがなされましたが、どうでしょうか。

福田 今回の条例案の改正は大いに評価できるものと思っております。ただ、審議の過程でも述べましたが、この制度を生かし市内に進出する企業が一つでも二つでも出てきてくれることを願っています。進出する企業が他の候補地と比べメリットと感じてくれる内容なのかどうか大きいと思っています。内陸部に比べて企業進出の魅力に乏しい本市なので、これ以外にも何か企業をひきつける施策が必要と考えます。ただこの内容は県の事業の一つで、沿岸地区に進出する場合の増額がありそれを活用したもので、他の沿岸部の市町村に先駆けての条例の制定である

ことから、早い時期から積極的にPRを行ってほしいと思います。

松野 最後になりましたが、小松議長にまとめていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

小松 皆さんが話されたとおりだと思っております。市民の暮らしを守る、応援することも大切であり、その形は様々であると考えますが、まさに喫緊の行政課題として必要なのは、産業の振興であり雇用の場の確保であるといえます。経済活動が行

われ、そのための必要な資材の購入や、人件費によって市内経済が回っていくことが陸前高田市の発展につながるのではと思います。市政に携わるものとしてこのまちを「次世代へ健全な形で引き継ぐこと」が大きな使命と考えます。本日は松野会長さんをはじめ皆さんご苦勞様でした。

学校給食センター 運営状況を視察



会派研修の一環として高田町鳴石地区に新築移転した学校給食センターを視察してきました。

チップボイラーの導入や、ドライシステムによる衛生的な調理ラインなど、安全面・衛生面への配慮とともに環境にも配慮した施設となっており、安心して子供たちに給食を提供できる施設ができたなど感じたところです。

実際に出来た給食を食べ、所長や栄養士さんたちと意見交換を行ってきました。その中では、食育のあり方と地産地消について意見交換がされ、地場産品の供給システムが課題であると認識したところです。



3月定例会報告

3月定例会では、福田利喜、西條 廣、佐藤信一の3議員が一般質問を行い、17年度の中里市長の基本姿勢や、国保条例改正、行財政改革プログラム等について質しました。

質問要旨

福田利喜議員

1 17年度予算案について

- 様々な分野に配慮をされている17年度当初予算と感じられるが、特に重点施策として事業展開を図ろうとしているものは何か。
- 行財政改革プログラムによる歳出抑制による市内経済への影響を極力抑えるとしていたが、どのような形で配慮したのか。また、本年度予算を執行するに当たってどの程度の影響があると予測しているか。
- 国保会計において大幅な保険料の改定を見込んでいるが、国保運営の見通しはどうか。特に、国保制度の安定的な運営が必要と考えるがどの程度のスパンで対応できる税額改定としているのか。

2 防災対策について

- 自主防災組織の組織状況はどの程度となっているか。また、自主防災組織に期待するものは何か。自主防災組織の整備拡充及び育成の方策をどのように検討されているか。
- 津波防災マップの作成が沿岸地域のコミュニティ推進協議会単位で進められているが、津波防災マップに掲載する内容はどのようになっているのか。また、地域への周知方法はどのようなものを計画しているか。
- 県が発表した津波被害の想定によると、本市の人的被害が一番多いと報道されているが、その根拠となったものは何か。インド洋で発生した大津波では、観光ビーチでの被害が多かったが、本市でも高田松原や広田海水浴場など夏の観光が主力となっており、観光客等に対する安全の確保も大切と考えるがその対策はどうか。
- チリ地震津波による経験を風化させないためにと毎年早朝に津波避難訓練が行われているが、災害は

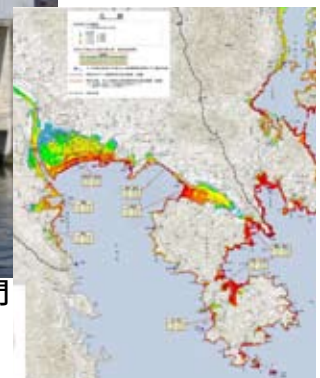
夜間に発生することも考えられることから、夜間に発生した場合の対応についても検討すべきと考えるがどうか。また、防潮堤の耐力度等は調査されているようだが、水門・樋門について大規模地震による稼働不良も予測されるが、調査や対処方法については検討されているのか。

3 雇用対策について

- 水産加工会社の民事再生法の申請や、縫製会社の事業廃止等も伝えられており、本市の雇用の場が年々少なくなっているように思うが状況はどのようになっているか。また、いち早い企業情報の把握による企業支援も必要と考えるが、当局では既存の企業との普段の情報交換や連携をどのように行っているのか。
- 当面自立を掲げている本市において、働く場の確保が最も大切と考えるが働く場の確保についてどのような施策を予定しているのか。



津波対策用浜田川水門



県が策定した浸水予測図



佐藤 信一 議員

1 第一次産業の振興について

- (1) 中山間地域等直接支払制度の最終年に当たり、これまでの取組をどう評価しているのか。また、17年度からスタートする次期制度をどう進めていくのか。
- (2) 農林水産省では、農地法改正案を提出し、耕作放棄地を解消するための対策を本格化しているが、当市の対応はどう考えているのか。
- (3) 農業振興の拠点として設置されている総合営農指導センターの役割について、現状を踏まえ、これからの運営はどうあるべきと考えているのか。

2 小・中学校の教育行政について

- (1) 地産地消、食育の取組の中で、学校給食センターと生産者、農協、流通業者等の協議の場づくりをどう進めるのか。
- (2) 身体に障害をもつ子供たちにやさしい教育環境の在り方をどう考えるか。
- (3) 学校週5日制に伴う総合的学習の中での「ゆとり教育」と「学力低下」の問題をどのように考えているのか。

3 陸前高田市総合計画について

- (1) 前期計画が17年度で終了することを踏まえて、どのように総括しているのか。
- (2) 18年度からの後期計画を策定するに当たり、「基本構想は改定せず」としているが、新たな重点施策は何か。



西条 廣 議員

1 市長の政治姿勢について

- (1) 中里ビジョンを後期計画にどのように反映させるのか。
- (2) 市制施行50周年を迎え、これまでの政策評価を基に長期的構想を示すべきと思うがどうか。
- (3) 市長は、「公約」に対する考え方をどのようにもっているのか。

2 黒崎温泉保養センターの現状と将来像について

- (1) 今年度の実績を見て、来年度以降の見込みはどうか。
- (2) 入館者のアンケート結果はどうか。
- (3) 月別の入館者数にばらつきが見られるが、収支均衡を図る利用促進策をどのように考えているのか。
- (4) 切符式入館券とカード式施設利用券、また、利用時間と金額の関係はどうか。
- (5) 温泉開設による市内経済への相乗効果をどのようにとらえているのか。
- (6) 増築・増設、民活など、入館者の声にどのような形でこたえていくのか。

3 気仙地区の広域課題について

- (1) 「気仙はひとつ」という議員連盟が結成されたが、市長はこのことをどのようにとらえているのか。
- (2) 気仙広域連合の在り方について、副連合長としてどのようにとらえているのか。

黒崎仙狭温泉紹介



上：黒崎温泉保養センター全景 右上：浴室からも太平洋が一望 右下：休憩室、地元海産物料理も楽しめます
中央下：浴室入口、1週間ごとに変わります

国民健康保険税条例改正案、 及び国民健康保険特別会計案への対応について

様々な論議を呼んだ国民健康保険条例の改正案と十七年度国民健康保険特別会計予算でしたが、我々新星会は、かねてからの主張どおり中里市政とは是々非々の態度で市政運営に参画するとしております。その基本となるべきものは、「市民生活の安定と発展」であり、「次世代へ健全な形で引きつぐこと」だと考えております。

中里市政の大きな方向転換であり、公約した政策が正しかったのかとの議論にまで至りました今回の国民健康保険引き上げですが、国民健康保険の現状と国民健康保険制度の安定、市内経済への影響を第一義に考えて、賛成の表明をいたしました。中里市政への判断は次期市長選挙において、政策とこの四年間の結果を皆様とともに行いたいと考えております。

また、我々は議論したことで、主張したことに責任を持つとうと、本会議において自分たちの考えをまとめ、賛成討論を行いました。

三月議会討論全文

議案第七号土地改良事業の施行についてから議案第二十八号平成十七年度陸前高田市水道事業会計予算まで、執行前提案一件、条例案十二件、予算案九件について賛成の立場から討論を行います。

今期定例会で審議された議案はいずれも市民生活に直結したものであり、昨年決定された行財政改革プログラムに沿って具体的施策運営を進めようとするものであり、市民生活に不可避のものであります。

特に近年の誘致企業の撤退や廃業などによって、市内の雇用の場が失われていることから、少しでも雇用の場の確保に端緒を付けようとして提出された、陸前高田市企業立地奨励条例の一部を改正する条例など評価すべきものと考えております。一般会計予算についても、地方財政を取り巻く環境が厳しい中での予算案であり工夫されたものと感じます。予算審議でも議論をいたしました。その財源確保のあり方について一考を求めたところ、十八年度以降において市債管理基金からの繰

り入れについて一定の方向が示されたことから、その遂行についての対応を望みます。

本定例会で審議の中心を占めた陸前高田市国民健康保険条例の一部を改正する条例と平成十七年度国民健康保険特別会計予算については、市民生活に直結するものであり、国民健康保険の四十五・七パーセントが加入し、日々の生活に欠かせないものであることから、制度の安定的な運営を第一義に考え議論してきたところであります。審議の過程で明らかになったように本年度末の基金残高予測は二億八千万円ほどとなる見込みであり、来年度予算で増収を見込んでいる国民健康保険額は二億五千二百万円となっています。このことから勘案すると国民健康保険の増額なくしては国民健康保険の安定的運営どころか、来年度における不測の自体にも窮する状況であると推測いたします。市内経済の長引く低迷による市民生活を考えると、大幅な増税が及ぼす影響を考え通増的な税負担のありかたも提言したところでです。

しかし、国民健康保険連の国民健康保険安定化基金制度もなくなった今、国民健康保険の不測の事態により一般会計からの財源確保を

行うことは、自主財源での手当てということとなり、大きく依存財源に頼る本市の財政構造から鑑み、投資的予算等への影響が大きいことなどから市内経済・市民生活への影響がより一層大きくなることが予測されます。このことから賛成すべきものと判断した次第であります。審議の過程でも述べましたが、国民健康保険のみに主眼を置いた考え方だけでなく、市内経済や行財政全般に亘った考え方・ものの見方をした運営に努めて頂きたいと強く希望します。

特に、予算執行及び市政の運営に当たっては、今回のように前期高齢者医療制度の変更等の要因はありましたが、短期間での大幅な国民健康保険の変動や市民負担を来すことのないよう、中里市長にはポピュリズムを主眼とした政策から脱却し、広い視野を持った行政運営を望むものです。

以上で私の賛成討論を終わります。議員各位の賛同をお願いいたします。

※ポピュリズムとは、一般に指導者が政治目的を実現するために、民衆層を動員する運動。あるいは、大衆迎合的な政策を言う。

会派を代表し、幹事長である福田議員が討論を行いました。

16年12月議会

質問要旨

福田利喜議員

1 平成 17 年度の予算編成方針について

行財政改革プログラムの実質的初年度といえる来年度の予算編成方針が示され、現在編成作業を行っているがその基本となるべきものは何か。

- 自主財源が乏しく地方交付税をはじめ国県の交付金や補助金に大きく依存している本市の財源であるが、来年度の歳入確保についての見通しはどうか。
- 限られた財源の中で、中里カラーを打ち出しているが、来年度予算編成において推進すべき点として指示したものはどのようなものか。
- 行財政改革プログラムでは各年 2 億円程度の歳出抑制が計画されているが、市民生活への影響度はどの程度になると予測しているか。
- 来年度に計画策定を予定している市総合計画の後期計画について、その計画手法などについては策定作業に要する予算も発生すると考えられることからその基本方針等について方向性と概要が示されていると思うがどうか。
- 第一中学校の改築工事は来年度から本格的なものになるが、17 年度に予定している工事内容はどのようなものか、またどの程度の工期を予定しているのか。

2 観光行政の振興について

一次産業の振興とともに、早急な企業誘致が見込めない状況において交流人口の増加が本市の発展につながると考えられることから観光行政の振興が大切と考えるがどうか。

- 交流人口の増加策として観光行政の振興が不可欠と考えるが、リゾート後の本市の観光行政の基本指針となるものが必要と考えるがどうか。また、人を

平成 16 年 12 月に開催された定例会では、福田利喜議員が一般質問を行いました。

呼び込むための観光行政として具体的にどのようなものを展開しようとしているのか。

- 市内の様々な施設管理に独自の施策や運営が出来るよう、指定管理者制度の導入をも検討すべきと考えるがどうか。
- 観光の大きな武器であり市民の大切な財産である高田松原を、もっと有効的に活用すべきと考えるがどうか。そのためには、文化財をはじめとし保安林など様々な規制があるが地域指定などを再検討すべきと考えるがどうか。

3 共生のまちづくりについて

本年度で大方の整備が終わる共生のまちづくり事業であるが、その成果と今後の共生のまちづくりについて。

- 今年度まで高田町内の歩道の改修事業を主たるものとして行われてきた共生のまちづくり事業であるが、その成果をどのように検証しているか。
- 障害を持つ方々と共生することを目的に進められてきた事業であるが、歩道の改修により多くの方々がまちにでかけられるように整備が進んだが、公共施設や歩道の整備改修が終了した地域などの商店等の利用に障害を持つ方々がより利用しやすいトータルな共生のまちづくりの政策が必要と考えるがどうか。
- 来年度以降の共生のまちづくり事業のような障害者・高齢者福祉の充実を推進する事業計画はどうか。



新学生会員



西條 廣

副会長
議会運営委員長
産業建設常任委員



佐藤信一

事務局長
教育民生常任委員



松野榮雄

会長
総務常任委員



小松 真

顧問
議長
教育民生常任委員



福田利喜

幹事長
総務常任委員
議会運営委員

入札制度・シルバー人材センターの 運営・地場産品の販路拡大

について視察

平成十六年度の政務調査活動の一環として、行財政改革プログラムを実行する上からの有効的な施策の推進につながるような勉強をしようと、群馬県富岡市と全国シルバー人材センター事業協会、及び岩手県のアンテナショップであるいわて銀河プラザを視察してきました。

富岡市では、公共工事における入札制度について財政担当からお話を伺ってきました。県内に先立って「入札予定価格の公表制度」を実施しておりその運用と成果について勉強することができました。

これまで、様々な機会に入札予定価格と落札率等が議論されてきまし



官営富岡製糸場にて（片倉製糸所有）

た。富岡市では、非公開だった入札予定価格を公表することにより、適正な価格で競争が行われるとの成果が出ているとの事でした。落札率についても、非公開のときより低くなっており、工事費用の低減にもつながっているとのこと効率的な予算の執行に貢献しているとの事でした。

社団法人全国シルバー人材センター事業協会は、本市のシルバー人材センターも加入している全国組織であり、各地のシルバー人材センターを指導する立場にある団体です。ここでは、本市でも見受けられますがシルバー人材センターと一般の営業



富岡市役所にて



いわて銀河プラザにて説明を受ける

を行っている方々との仕事の重複や競合関係について意見交換をしてきました。

シルバー人材センターは、設立の趣旨からして民間事業者との競合は好ましくないものであるが、実際は様々な分野で競合関係が起きているとの事でした。東京などでは、障子や襖の張替えなど内装屋さんとの競合が問題になっているとの事でした。介護の分野など新たな業種やサービスを考えている団体もあるとの事であり、都会と地方では業種や運営に違いが見られる状況であるとの報告がありました。運営に当たっては、行政との関わりが多きいことから、今後も検討課題したいと考えております。

いわて銀河プラザでは、岩手県産品の販路拡大について、岩手県

ご意見をお聞かせください。

新星会では、会報「新星会」をはじめ、座談会や意見交換会など様々なことを計画しています。地区公民会、町内会、婦人会や数人の集会でもかまいませんので、お気軽にお声掛けください。どこへでもお邪魔いたします。

是非、市民の皆様の率直なご意見をお聞かせください。

◎連絡先

新星会会長 松野 榮雄 (55 - 4416)
新星会幹事長 福田 利喜 (56 - 2166)

または、会派員へご連絡いただければ幸いです。

東京事務所の担当者から説明を受けました。歌舞伎座の向かいという立地条件から集客数は他県のアンテナショップとは比較にならないくらいの数であるとの事で、宣伝効果は大きいとの事でした。

歌舞伎座へ見えられるお客さんや、近くのオフィスの方々が、お弁当を買い求める機会も多く、毎日岩手から届くお弁当がすぐに品切れになる状況が続いているとの事でした。担当者のお話では、陸前高田市の会社の製品も数社から入荷しているという事で、酔仙の「雪つこ」が棚一段を占領している光景は圧巻でした。本市としても積極的な利用を行うことが地場産品の販路拡大につながると感じたところです。